

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1	生徒一人ひとりの持てる力を最大限に引き出す学校
2	希望する進路が実現できる学校
3	社会人として通用するマナーと社会人基礎力（考え抜く力、行動する力、コミュニケーション力）が獲得できる学校
4	質の高い教育により、人間性豊かな人材を育成する学校 生徒力（自分に自信を持つ力・他人を認める力・カバーリングする力）が獲得できる学校
5	生徒及び保護者が「入学して（入学させて）良かった」と思える学校

2 中期的目標

＜※令和5年度からの3か年目標＞	
1	基本的生活習慣を自らコントロールできる生徒の育成 — 生徒指導の充実 — (1) あいさつ運動や生徒との対話を重視し、安心して学習に臨み、かつ魅力のある学校づくりをめざす。 (2) 社会人として通用するルールやマナーについて、自ら考え自ら行動できる生徒の育成をめざす。 (3) 生徒一人ひとりのニーズに寄り添い、生徒が相談しやすい生徒指導体制をめざす。 ※学校教育自己診断(生徒対象)の「学校生活についての教員の指導」に関する項目で満足度を毎年2％引き上げ、令和7年度には70%にする。 (R2 67%, R3 70%, R4 64%)
2	夢や目標に向かって自ら努力できる生徒の育成 — 進路指導の充実 — (1) 現行の「3年間を見通した進路指導」を発展させ、生徒の進路希望を見据えたキャリア教育指導の充実を図る。 (2) 新学習指導要領に基づき編成した教育課程により、授業内容の見直しとともに、生徒の進路希望に対応できるような授業の質の向上をめざす。 (3) 将来教員を志望する生徒のための「教職トライコース」における専門教科・科目の実施、特に「教職講義」及び「教職実習」の円滑な運営を図る。 (4) 各教科の指導内容と進路実現との関係性を重視し、教科間の意思疎通を図りながら、相互補完的な学習指導を構築する。 (5) ICT 機器の活用や研究発表等、アクティブラーニングの機会を増やすなど、生徒の学習意欲や自己表現力の向上をめざす。 (6) 生徒個々の学力測定を綿密に行い、計画的な学習スケジュールを提供し、家庭学習の定着化を図る。 (7) 外国語学習や国際交流を通じて、国際社会の一員としての自己実現をめざす。 【進路成果指標】3年生時点における第1志望大学の合格率90%以上(R2 70.0%, R3 75.5%, R4 79.5%)。 国公立大学及び難関私立大学合格者数の合計15人以上。(R2 1人, R3 14人, R4 18人) ※学校教育自己診断(生徒対象)の「進路実現に関する項目」で満足度を毎年2％引き上げ、令和7年度には97%にする。 (R2 88%, R3 91%, R4 91%)
3	文化・芸術・スポーツを愛し、心豊かな感性を持つ生徒の育成 — 特別活動の充実 — (1) 行事や特別活動を通じ、生徒が自主的・主体的に参加できるような土壌を育成する。 (2) 行事や特別活動を通じ、プレゼンテーション能力の向上をめざす。 (3) クラス活動等の活性化を図り、学校行事の質の向上と生徒の自己有用感の育成を図る。 ※行事やホームルーム活動等の満足度を毎年2％引き上げ、令和7年度には行事81%、HR87%にする。 (R1行事59%、HR67%, R2行事68%、HR73%, R3行事76%、HR81%, R4行事75%、HR81%)
4	地域や社会で貢献できるボランティア精神を持つ生徒の育成 — 地域連携の充実 — (1) 関連部署が連携し、学校広報活動(学校見学会、体験入学等)や学校行事への生徒の主体的な参加を推進する。 (2) 「地域との連携」の中から、生徒の自己有用意識を高めるため、地域のイベントや清掃活動等への生徒の参加機会を増やす。 (3) ホームページ等での情報発信力を高め、保護者や地域とのより綿密な連携を構築する。 ※学校説明会や地域行事等への生徒の参加 令和7年度にはのべ850人にする。(R4 のべ770人)
5	人の立場に立って考えることの出来る豊かな人権感覚を持つ生徒の育成 — 人権教育の充実 — (1) 安全安心な学校づくりの観点から、「人権教育基本方針」や「人権教育推進プラン」等に基づき、差別を許さない力と意志を持った生徒の育成をめざす。 (2) 相談体制を高め、様々な課題を抱える生徒のサポートに対応するための環境整備を充実させる。 (3) 知的障がい生徒自立支援コースの生徒に「ともに学びともに育つ」教育を実践する中で、全校生との人権意識の向上をめざす。 ※学校教育自己診断(生徒対象)の「人権教育等に関する項目」で満足度を毎年2％引き上げ、令和7年度には89%にする。(R2 79%,R3 89%, R4 83%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和5年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見																								
令和5年度 学校教育自己診断分析 <table><tr><td></td><td>1年生</td><td>2年生</td><td>3年生</td><td>全学年</td><td>R5回答率</td></tr><tr><td>生徒</td><td>157</td><td>143</td><td>178</td><td>478</td><td>93.4%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>108</td><td>83</td><td>78</td><td>269</td><td>52.5%</td></tr><tr><td>教職員</td><td></td><td></td><td></td><td>33</td><td>71.7%</td></tr></table> ◎ 実施方法は昨年同様に、生徒・教職員向けは学習支援クラウドサービス（タブレットを使用）、保護者にはさくら連絡網のアンケート機能を活用した。 ◎ 回収率はいずれも昨年より下がっている。 ◎ 保護者向けについては、さくら連絡網での回答で大きな変更だったことが、回収率低下につながったと考える。特に不満を感じていない保護者が、一定手間のかかる回答作業を避けている可能性もある。学年ごとの保護者の回答率は1年：64%、2年：51%、3年：43%となっており学年進行で下がっている。 ◎ 教職員向けの回収率が下がっているので改善が必要。学校のことで一番の意見が必要なアンケートであるだけに、回収率 100%に近づける必要がある。全体への丁寧な説明と回答の呼びかけを増やしていくしかないと考える。 ◎ 昨年度に引き続き、生徒・保護者・教職員いずれも高い肯定回答となっており、教育活動に対して一定の評価が得られている。 ◎ 集計結果については、生徒・保護者へフィードバックをし、教職員については昨年度との比較や今年度の分析とともに配付をし、教育活動の見直し・振り返りを図っていきたい。更に学校 HP に結果をアップし、地域や関係者にも伝える。		1年生	2年生	3年生	全学年	R5回答率	生徒	157	143	178	478	93.4%	保護者	108	83	78	269	52.5%	教職員				33	71.7%	第1回（6月30日）八尾翠翔高等学校学校運営協議会 【現在の学校の現状について】 ・コロナやインフルエンザが落ち着いてきているが、この先の行事はまだ不安である。 ・入試に関しては、3年連続定員割れ（160名の生徒になれば、4クラスになってしまう） ・新カリキュラムの観点別評価で生徒たちの評価が下がり、進路に影響が出るのではと不安がある。 ・進学実績に関しては19期生の成績が過去最高。（英検準2級を50%以上の生徒が持っていた） ・部活動の実績に関しては、陸上とトランポリンが全国レベル。 ・生徒会では、携帯電話の使用を促進する活動を積極的に行っている。 ・学校の設備が新しくなった。（全教室にエアコン、トイレがきれいに改装） ・学校の取り組みとして、コロナで中止になっていた語学留学を再開したい。 ・校務運営の効率化は、令和4年度からすでに実施済み。（毎週月曜に一斉休日） 【質問】 ・中学校では新カリキュラムの評価をどのように対応しているのか？ → 観点別の評価の仕方をいかに細かくできるか。（より客観的に評価するため、資料を集める） ・観点別評価により、成績上位者が減り指定校推薦などが難しくなるのではと不安がある。大学側では、どのように考えているか。 →大学では、部活動の実績や出席日数を重視している。 【意見】 ・定員割れをどうにかしなければならない。「行ってみたいと思える学校」作りに焦点をあてる。 ・翠翔高校に入れば、楽しいことはわかっている。課題としては、翠翔に入学したいと思う生徒を、どれだけ増やすことができるか。 ・教職トライで小学校に行く際には、翠翔のジャージを着るなど、学校をアピールしてはどうか。 ・町に翠翔のポスターを貼るなど、もっと宣伝する。
	1年生	2年生	3年生	全学年	R5回答率																				
生徒	157	143	178	478	93.4%																				
保護者	108	83	78	269	52.5%																				
教職員				33	71.7%																				

●生徒アンケート

【肯定的意見が多い項目】肯定率 80%以上

	R 2	R 3	R 4	R 5
7「電子黒板の ICT 機器が授業などで活用されている」	89%	90%	96%	95%
8「工夫をしている先生が多く授業はわかりやすい」	75%	78%	83%	81%
10「進路指導やコースガイダンスは適切」	85%	89%	88%	90%
11「進学など進路実現に向けて適切な指導である」	88%	91%	91%	89%
12「社会のルールを守る態度を学ぶ機会がある」	79%	89%	83%	83%
14「文化祭体育祭などは楽しく工夫されている」	68%	76%	75%	82%
17「いじめについてなど真剣に対応してくれる」	72%	79%	81%	81%
18「1 人 1 台端末を効果的に活用している」(R 4 年度からの追加項目)	84%	87%		

★18 項目のうち 8 項目で肯定的意見が 80%を超えており特にこの 2 年間は高い肯定率となっている。分掌や教科を中心に改善に取り組んだ成果であるとする。

【伸び率の高い項目】前年度比 5 %以上 UP

	R 2	R 3	R 4	R 5
1「入学してよかった」	66%	73%	62%	67%
2「学校に行くのが楽しい」	65%	75%	67%	73%
6「SNS や HP を今年度に見たことがある」	24%	24%	56%	70%
9「学校生活について先生の指導は適切に行われている」	67%	70%	64%	73%
14「文化祭などは楽しく工夫されている」	68%	76%	75%	82%

★SNS や HP についての伸び率が最も高い。総務部や広報が改革に取り組んできた成果であるとする。

【肯定的意見が少ない項目】肯定率 50%以下

	R 2	R 3	R 4	R 5
4「家庭での授業以外の学習時間を確保している」	47%	54%	51%	42%
5「気軽に相談することができる先生がいる」	56%	59%	43%	46%

★4 は昨年度より 9 ポイント低下している。学習習慣が 2 極化していると思われる。60%を超えるぐらいは必要。5 については、相談窓口やその方法についての周知を徹底していく必要がある。

●保護者アンケート

【肯定的意見が多い項目】肯定率 85%以上

	R 2	R 3	R 4	R 5
1「入学させて良かったと思っている」	86%	85%	85%	85%
4「長期休業中の補習・講習を十分にを行っている」	69%	81%	81%	85%
7「進路などについて適切な指導を行っている」	82%	83%	81%	86%
16「SNS や HP を今年度に見たことがある」	49%	51%	79%	91%

★4・7・・・進路関係の肯定感が高い。

16・・・SNS やさくら連絡網や HP ブログ更新回数の増加が要因と考えられる。

★17 項目のうち 7 項目で肯定的意見が 80%を超えており、R 5 にはあらたに 2 項目がプラス。分掌や教科を中心に改善に取り組んできた成果であろう。

【生徒・保護者間で差のある項目】

	生徒	保護者
生徒 8 ,保護者 3「授業はわかりやすい」	81%	64%

【肯定的意見が少ない項目】肯定率 66%以下

	R 2	R 3	R 4	R 5
4「授業はわかりやすいと言っている」	55%	56%	64%	64%
5「家庭での学習時間を確保している」	52%	54%	60%	54%
13「PTA 活動が活発」	59%	62%	67%	66%

5・・・家庭学習について工夫する必要がある。

13・・・PTA 活動について、保護者への案内・情報発信を増やす必要がある。

●教職員アンケート

【肯定的意見が多い項目】肯定率 95%以上

	R 3	R 4	R 5
1「教育活動の評価を行い次年度の計画に生かしている」	89%	95%	100%
5「系統的なキャリア教育を行っている」	95%	98%	97%
6「生徒が進路選択できるよう、きめ細かい指導を行っている」	95%	100%	100%
10「教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」	92%	100%	97%
16「必要な情報を生徒・保護者や地域へ周知に努めている。」	97%	100%	100%
18「いじめの体制が整い迅速に対応することができる」	100%	100%	100%

★18 項目のうち 9 項目で肯定的意見が 90%を超えている。R 4 の 12 項目から 3 項目減少したものの高い肯定率となっている。分掌や教科を中心に自信をもって取り組んできた成果であるとする。

【伸び率の高い項目】

	R 3	R 4	R 5
9「学校行事が魅力あるものとなるよう工夫・改善を行っている」	84%	88%	91%

【肯定的意見が少ない項目】肯定率 80%以下

	R 3	R 4	R 5
2「電子黒板等の ICT 機器を授業などで活用している」	87%	88%	79%
12「学習指導計画について各教科でよく話し合っている。」	78%	80%	73%

★2・・・異動（転出）により ICT 機器を授業などで活用する割合が減った。

12・・・新カリ移行期であるがゆえに教科で意志一致をして生徒保護者への情報発信を増やす必要がある。

★18 項目のうち 16 項目で肯定的意見が 80%を超えている。高い肯定率は、変化や深化を求めずに、指導や教育活動を突き詰めた結果であるとする。過去 3 年間の肯定率 80%以下が、R 3 年度 2 項目・R 4 年度 0 項目・R 5 年度 2 項目にとどまっている。

第 2 回（11 月 2 日）八尾翠翔高等学校学校運営協議会

【学校の現状と取り組みについて】

・部活動報告…陸上部・軽音楽部など様々な部活動の活躍

・生徒会…生徒会生の働きかけにより、携帯使用ルール変更（放課後は携帯の使用 OK）

・新プロジェクター導入（20 台）

・新行事の考案など新しいことを行っていく

■課題

①入試の志願者倍率確保

②合格者の地元率の落ち込み（入試倍率と比例）

③合格者の男女比率（女子の比率が低い）⇒女子に選んでもらえる学校をめざす。

■解決策

★新しい取り組みを考えていく⇒学校行事の見直し、宿泊研修の見直し、生活ルールの見直しなど

【学年・分掌進捗状況】

1 年：進路変更済み生徒 6 名。長欠者はなし。

2 年：中学時代がコロナでなにもにつけても消極的、活動を行う力不足の面が大きいことが課題。

3 年：簡単にあきらめさせないなどの、生徒指導の重点を継続中。

生指：携帯使用ルールの変更に伴って指導に注意。今のところ携帯使用ルール変更による問題はなく、順調。休日登下校時の服装、昼休みの携帯使用のルールなど考え中。部活動ごとに通学路を清掃する活動を行う予定。

生徒会：行事はスムーズに実施。生徒の意見を聞きながら様々なルールを検討していく。

進路：3 年学校別入試説明会では、入試に関する話が直接聞けて満足だった様子。

総務：SNS で活発に発信。HP が新しくなる。さくら連絡網の導入（保護者と学校のスムーズな連絡、迅速な休み連絡などが可能に）

人権推進委員会：差別発言が 1 件⇒早期対応で解決済み。教員にも周知済。

【委員の方々からの意見】

・地域住民の視点：高齢者が多いため、自転車での接触事故をおこさないよう気をつけるように。通学自転車指導が必要。

⇒生徒指導部：集会で注意・プリント配布など、早めの対策を検討。

・HP などの書き込み：翠翔は風紀に厳しい、生徒指導が行き届いている。ということは地域住民の共通認識。「翠翔に行けばマナーが良くなる。」だから行かせる。更生させてくれる。という考え。⇒厳しいことは長所でもある。しかし、女の子は「私服がいい」男の子は「校則がゆるいかどうか」が学校選びの大きなポイントの 1 つとなっていることも事実。

★緩めるだけでは良いところなくなる。今の子供たちとどう歩み寄っていくかがポイント。

⇒「翠翔は短期勝負で考える必要がある。八尾・柏原の子どものために学校を残していきたい。」

・プロジェクターの活用、書かせることも大切。授業よくやってる。

・「各コースに定員はあるのか？」⇒教務部「なし。生徒の希望を聞き、コースに分かれる。」

・SNS でのいじめなど、見えないところでのいじめなどには注意を。

・学校存続のための起爆剤としての即効性のあることなら、私服に変えるなど大きな変更が必要。

⇒校長「学校が消えるくらいなら制服を私服に変えることは OK。優先すべきは学校の存続。」

・定員が割れる⇒よほどのことがないと落ちないにもかかわらず入ってこない、選ばれない。

⇒入ってみたいと思える学校になっているかどうか。入って良かったという翠翔生と、学校を選ぶ中学生との間に翠翔への認識の差が。その点を考えていくことが大切。

・SNS などを積極的に使用していく。⇒市民スポーツ祭の手伝い、ボランティアなど生徒の活躍の場を増やし、もっと積極的に広報していくべき。広報の仕方ももっといろいろ考える。

★誹謗中傷をどうするかよりも、良い情報をどれくらい増やし、発信していくか。ネットで情報収集する子どもたちに向けて、様々な観点のポジティブな情報を発信することでどれか 1 つでも刺さることを期待して。携帯のルールなど、生徒主体での取り組みをもっと発信していくべき。

第 3 回（2 月 22 日）八尾翠翔高等学校学校運営協議会

【学校の現状と取り組みについて】

◎コロナについて・・・学校閉鎖はなし。

◎変化 ①全校一斉休日 ②校内運営効率化(さくら連絡網、学校閉庁日、文書のペーパーレス化)

・大教大の作文コンクール 最優秀賞を受賞（本校 2 年）

・17 日に最終学校説明会。→現段階での希望調査 135 名／240 名

◎施設・・・夏に教室のエアコンが新しく。トイレも改修。今後教室設置のスクリーンも新調予定。

◎R 5 学校教育自己診断の結果

・全体的には数値が増加。・例年と違い 3 年生だけでなく、1 年生の結果も良好。

・1 年生は定員割れした学年だが、肯定的意見が多いのは教員の取り組みが良かったこと、指導スタイルの変化が影響した。

・生徒アンケート結果、18 項目中 8 項目で生徒の肯定的意見が 80%超え。（入学してよかった・楽しい・先生の指導は適切 など。）→保護者にも通知済み。

【委員の方々からの意見】

★八尾翠翔高校に入学してよかったと思っている生徒と、入学させてよかったという保護者の乖離はなぜか？

★地元目線での印象→風紀などの面で、保護者には人気だが、生徒には不人気。それはなぜなのかというところから突き詰めるべき。親と子の気持ちがぜんぜん違う入ってみたいという魅力をどうアピールするか。

★この 1 年、工夫しているのは伝わったが、中学生に翠翔の魅力が浸透しているかが問題。親の気持ちと生徒の気持ちの乖離が気になる。中学生が行きたいと思えるよう、魅力発信が必要。八尾市、柏原市以外、東大阪・大阪市内からも来てもらえるよう、目を広げてみてはどうか。

★コロナの影響で、「宿泊」に対する意識が変化して否定的になっているのでは？

「様々な教育課題が増えてきている。あと 10 年でかなりの変化を受け入れなければならない。今の段階から準備が必要。」

府立八尾翠翔高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 4 年度値]	自己評価
1 生徒指導の充実	(1) 生徒との対話と学校生活における満足度の向上	(1) 生徒と積極的に対話を重ね、生徒が主体的に行動するよう働きかけるとともに、生徒の活躍を校内で紹介し、活気ある学校にする。	(1) 生徒向け学校教育自己診断における学校生活等の項目における肯定的回答の向上 ※69% [67%]	(1) 「学校に行くのが楽しい」 73% (◎) ※生徒と積極的に対話をさらに重ね、主体的な行動の醸成をさらに促す。
	(2) 社会ルールの獲得と自己表現力の育成	(2) ☐ A 生徒が自ら考え行動するよう生徒にとって納得感のある指導を行い、自主的に社会規範を身に付けるよう計画する。 ☒ I 授業や HR 活動にディベート等をこれまで以上に積極的に取り入れ、生徒が自ら考え発表する機会を増加させる。	(2) ☐ A 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答の向上 ※66% [64%] ☒ I 生徒向け学校教育自己診断アンケートにおけるプレゼン能力の肯定的回答の向上。 ※66% [64%]	(2) ☐ A 「学校生活について先生の指導は適切に行われている」 73% (◎) ※生徒にとって納得感のある指導をさらに心がける。 ☒ I 「自分の考え方をまとめたり発表したりすることがよくある」 62% (△) ※生徒が自ら考え発表する機会を増加させる必要がある。
	(3) 生徒の立場に配慮した生徒指導の充実	(3) 生徒が気軽に相談できる雰囲気が高まるよう、教員のカウンセリングマインドの更なる充実に向けた研修等を実施する。 生徒にとって居心地のよい空間を積極的に作っていく。	(3) 学校教育自己診断における教員と生徒の距離感に関する項目での肯定的回答の向上 ※45% [43%]	(3) 「担任以外に気軽に相談することができる先生がいる」 46% (○) ※教育相談や支援教育の体制を整え、生徒や保護者に紹介をしていく。
2 進路指導の充実	(1) キャリア教育指導の充実	(1) ☐ A 生徒向けの進路選択及び科目選択について、個々の教員のガイダンス能力を高める。 ☒ I 授業や調べ学習、セミナー等において、積極的にキャリアガイダンスステーションを活用するとともに、教員が生徒と対話を重ねながら、生徒のモチベーションを維持し、個々の進路選択について支援する。	(1) ☐ A 及び ☒ I ① 生徒向け学校教育自己診断における進路指導、進路ガイダンスに関しての肯定的回答の向上 ※ 90% [88%] ② 卒業時の国公立大学及び難関私立大学学合格者数の合計 15 人以上 [18 人]	(1) ☐ A 及び ☒ I ① 「進路指導やコースガイダンスは適切」 90% (○) ※教職員の進路ガイダンス力はさらに向上させる必要がある。 ② 難関大学合格者数の合計 6 人 (△)
	(2) 授業改善に係るシステムの構築	(2) 教員相互の授業見学・研究週間を年 2 回実施、先端的な教科指導に関する研修を開催し、教員の授業力の更なる向上をめざす。	(2) ① 生徒向け学校教育自己診断における授業改善項目の肯定的回答の向上 ※85% [83%] ② 授業アンケート全教科平均値向上※3.29 [3.27]	(2) ① 「工夫をしている先生が多く授業はわかりやすい」 81% (△) ※教職員の授業力はさらに向上させるべく、研修を継続する必要がある。 ② 授業アンケート 3.25 (△)
	(3) 新たな専門コースの運営	(3) 「教職トライコース」の教育課程を円滑に実施し、生徒に将来教員になるための素養を育む。	(3) 「教職トライコース」における専門教科・科目の円滑な実施、特に「教職講義」及び「教職実習」の運営。	(3) 「教職講義」大学教授 13 講座 学校の独自プログラム 13 講座 「教職実習」八尾市立小学校 14 校で実習。東大阪市立中学校・八尾市立中学校で実習。(○)
	(4) 系統立てた教科指導の確立	(4) 各教科が育てたい生徒像と身に付けさせたい学力を確認し、3 年間の指導計画を作成する。同時に「授業改善」に向けた議論と教材の共有化を図り業務の効率化をめざす。	(4) 教員相互の授業見学、教員研修等 (各 2 回) 教材の共有化を「自己申告票」に各教員が記載。コース選択に基づく、生徒の希望進路に応じた学級編成。	(4) 「教職員間で授業方法について検討する機会を積極的に持っている」 85% 併せて、教材の共有化について各教員が「自己申告票」に記載。(○)
	(5) 学習意欲向上と自己表現力の育成	(5) ☐ A ICT 機器や視聴覚教材を活用して授業展開に工夫を加えるなど、生徒の学習意欲向上に繋がる授業づくりを推進する。 1 人 1 台端末の効果的な活用を推進する。 ☒ I アクティブラーニングにより、生徒の理解力、自己表現力向上をめざす。 会議資料のデジタル閲覧によりペーパーレス化を推進し、会議の時間短縮に取り組む。 採点支援ソフトの活用により時間外勤務時間縮減に取り組む。	(5) ☐ A 生徒向け学校教育自己診断における ICT 機器に関する項目の肯定的回答の向上 ※98% [96%] 1 人 1 台端末の活用の肯定的回答※86% [84%] ☒ I 会議室(ICT 機器導入)や電子黒板の積極的な活用。※活用率 90% [88%]	(5) ☐ A 「電子黒板の ICT 機器が授業などで活用されている」95% (○) 「1 人 1 台端末を効果的に活用している」 87% (○) ※指標を下回ったが、高水準であり、ICT の授業活用はできている。時間外勤務時間削減の一助ともなった。 ☒ I 「電子黒板等の ICT 機器を授業などで活用している」 79% (△) ※教職員活用率をさらに向上したい。 ※時間外勤務時間削減はかなり進んだ。
	(6) 家庭学習の定着	(6) 生徒が継続的に家庭学習に取り組むよう教育産業による学力検査等を利用し、個々の学力向上支援を行う。	(6) 生徒向け学校教育自己診断における家庭学習状況に関する項目の肯定的回答の向上 ※53% [51%]	(6) 「家庭での授業以外の学習時間を確保している」 42% (△) ※週 2 回の朝の小テスト、英検・漢検受験や教育産業の提供する学習教材の活用を通じて家庭学習の定着を図る必要がある。
	(7) 国際交流活動の活性化	(7) 海外語学研修を計画し、実施する。	(7) 海外語学研修の実施。参加者 25 人以上目標。 [R 4 未実施]	(7) 新型コロナやインフルエンザの流行により研修は実施できず。(△) ※語学研修という長期にわたるものよりも、スタディーツアーレベルの短期のものから考えていきたい。

府立八尾翠翔高等学校

3 特別活動の充実	(1) 生徒の主体的な活動の活性化 (2) プレゼンテーション能力の育成 (3) ホームルーム活動の活発化	(1) 学校行事等の企画・運営段階からの生徒の積極参加を促し、生徒が自ら運営し実現したという達成感を獲得できるようにする。 (2) 学校行事や総合学習における生徒のプレゼンテーションの機会を増やす。 (3) 主体的・対話的なホームルーム活動を行い、生徒会活動や部活動を中心に、生徒の意見を吸い上げ、その活性化を図る	(1) 学校教育自己診断アンケートにおける肯定的回答の向上 ※77% [75%] (2) 学校教育自己診断での、プレゼン機会の肯定的回答の向上 ※66% [64%] (3) 「意見箱」の意見を反映 部活動参加率の向上 ※62% [60%]	(1) 「文化祭体育祭などは楽しく工夫されている」 82% (◎) ※生徒の意見を反映して実施できた (2) 「自分の考え方をまとめたり発表したりすることがよくある」62% (△) ※授業等でプレゼン機会を積極的に取り入れていた。(授業見学より) (3)部活動参加率 62%(○) 「部活動活性化に積極的である」77% ※特に1年生が70%となり期待が持てる ※携帯電話の使用ルールや休日の体操服登校や文化祭の開催日数など生徒の意見を反映させて生徒会中心の活動ができた
4 地域連携の充実	(1) 学校広報活動の推進 (2) 生徒による地域進出の推進 (3) 積極的な情報発信 (4) 大阪教育大学との連携	(1) 学校説明会や体験入学、中学校への学校案内における生徒主体の広報活動を展開する。 大教大と連携し学校紹介リーフレットを作成 (2) 曙川東地区等の行事協力や、地域の保育園・高齢者福祉施設等と連携した生徒の活動を増やし、愛される学校をめざす。 (3) 本校の取組みを、ホームページ等を活用し、積極的に発信する。 地元中学校との連携強化を図る。 (4) 大教大との連携について整理・調整。 大教大主催の教員志望者プログラムへの参加を積極的に薦める	(1) 広報活動への本校生徒参加者数 ※800人以上目標 [770人] ポスターやリーフレットを八尾・柏原・東大阪市中学校を中心に広く配布 (2) 地元地域との連携 ※保育園等での演奏等 [吹奏楽部が演奏] 地域交流の場への参入「茶吉庵 project」 (3) HPのブログ更新 100回/年、学校説明会参加者数 550人以上 [459人(1月)] 地元中学生を本校に招く [11月実施] (4) 連携メニューの充実。 「教師まっすぐ」参加者数5人 [0人] 教職トライ専門コースにおける「教職講義」で大教大教授の講義。7回	(1) 学校説明会や体験入学での本校生徒参加、中学校への生徒訪問など、シフトを広げて参加者数や機会が伸びる。のべ、800人 (○) 中学校を積極的に訪問。近隣9中学にアンケートの実施。HPのリニューアルなどの取り組み (2) 地域の保育所への演奏活動 (2園)、八尾市合同文化祭参加、「茶吉庵 project」実施。FM ちゃお番組参加。地域の保育所とハロウィン交流やクリスマス交流。曙川東地区等の行事協力。生徒の活躍の場を広げられた (○) (3) 学校紹介動画 SNS や動画配信サービスで発信、地域掲示板・回覧板で情報発信 HPのブログ更新 240回/年 (○) 部活動ブログ更新 70回/年 (○) 学校説明会参加者 497人 (1月) (○) 堅下北中学生徒会との交流 (○) (4)大教大との連携 「教師まっすぐ」参加者0人 (△) 2年生のみ対象となったことと、特別入試の資格はすでに教職トライ専門コースで獲得できていることが原因 「教職講義」(4講座/年) (△) 他大学との連携が強まった分大教大の回数が減。 ※柏原東高校との機能統合によりさらに強くなった大阪教育大学との連携については、教育庁にも調整に加わっていただいた教職トライ専門コースを中心に発展させていかないといけない。
5 人権教育の充実	(1) 安全安心な学校作りの推進 (2) 生徒相談体制の環境整備 (3) 自立支援コース生徒との協働作業の促進	(1) 不登校や問題事象の兆候を感知できる教員力の強化。いじめの早期発見に努めるとともに、事象への組織的対応を迅速に行う。 保健室前に「相談箱」設置 (2) 生徒の様々な相談対応に向け、関係教員のスキルアップとともに、発達障がい等の特性に対して的確に指導できる体制を構築する。 (3) 自立支援コース生徒への教育活動を通した「ともに学び、ともに育つ」教育の一層の充実。生徒の自己肯定感の育成とともに、コース生以外の生徒との協働作業を通じて相互理解を深め、信頼し励ましあう関係を作る。	(1) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目での肯定的回答の向上※83% [81%] いじめに関するアンケート 年1回実施 (2)生徒向け学校教育自己診断の教育相談等の項目における肯定的回答の向上 ※45% [43%] (3)生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目の肯定的回答の向上 ※85% [83%] 自立支援・共生推進卒業生アンケートにおける同級生の肯定的回答の向上 (R5年5月末に R4 数値提示 参考 R3 84%)	(1) 「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」81% (△) ※いじめ等人権に係る問題事象の兆候を見逃さず対応するよう心掛けた。 (2) 「保健室相談室などで気軽に相談することができる先生がいる」46% (○) ※相談窓口やその方法についての周知を徹底していく必要がある。 ※教育相談と支援教育体制についての組織改革と教職員研修により、生徒のサポート体制構築に努めた。 (3) 「命を大切にする心や社会のルールを守る態度を学ぶ機会がある」83% (○) ※学校行事等での協働作業を通じて相互理解が深まっているなど成果が見られた。2% 下回っているが高水準の中での若干の値なので、(○) と評価できる。 「共に学んでよかった」 R4 数値 83% (○)